

「**デ**キるふり」から

はじめなさい

千田琢哉

今日から
胸をはろう

「できるふり」からはじめなさい

千田琢哉

星海社

28



SEIKAISHA
SHINSHO

ホラ吹きは、成功のはじまり。

「嘘つきは泥棒のはじまり」

物心ついてから家庭でも学校でも、そう教わったはずだ。

教育とは恐ろしいもので、

未だにうっかり嘘をついたら自己嫌悪に襲われないだろうか。

だが、一度も嘘をついたことがない人間など

この世に1人もいない。

それどころか、夢を実現させてきた豪傑ごうけつは
みんな大嘘つきだった。

35ドルを片手に家出して「この世で神よりも有名になってみせる！」と
だいげんそつご
大言壮語し、ギネス級のアーティストとなった**マドンナ**。

彼女を除いて、周囲は全員嘘つきだと思っていたに違いない。

口論の末「私だって小説くらい書いてみせるわ！」と大言壮語して、

地球規模のベストセラー作家となった**アガサ・クリステイ**。

彼女を除いて、周囲は全員嘘つきだと思っていたに違いない。

自転車屋が「人も鳥のように空を飛べるはずだ！」と大言壮語して、

人類初の飛行機パイロットとなった**ライト兄弟**。

彼らを除いて、周囲は全員嘘つきだと思っていたに違いない。

正確には夢を實現した豪傑たちは「嘘つき」ではなく、「ホラ吹き」だった。

ホラ吹きには真実が1%入っているが、嘘には真実が入っていない。

1%の差とは、

本人たちが真実だと思い込んでいたか否かの差だ。

本人たちが、

圧倒的勘違いをし続けていたか否かだけの違いなのだ。

1%の差は果てしなく大きく、

人類の歴史を塗り替えることもある。

さあ、あなたもホラを吹こう。

- 1 自分の師匠ししょうを見つける……………16
- 2 ギリギリまでマネをする……………20
- 3 最後は師匠とコースをずらす……………24
- 4 できる人に嫉妬しつとをしない……………28
- 5 面接やプレゼンでは演じきる……………32
- 6 二階級上の目線を持つ……………36
- 7 自分よりできる人と仕事をする……………40
- 8 ベストの環境と道具を用意する……………44
- 9 タイプが似ているできる人をマネる……………48

10 生い立ちが似ていてできる人をマネる……………52

仕事の8つの「できるふり」 57

11 できる人は決断に時間をかけない……………58

12 できる人はオドオド、セカセカしない……………62

13 できる人は、無言で職場に入ってこない……………66

14 できる人は冴^さえない毎日でも腐らない……………70

15 できる人はいやいや文書作成をしない……………74

16 できる人はいやいや謝罪をしない……………78

17 できる人はピンチのときに居酒屋でグダグダしない……………82

18 できる人は聞こえないふりなどしない…………… 86

人間関係の10の「できるふり」 91

19 できる人は孤立しない…………… 92

20 できる人は八方美人ではない…………… 96

21 できる人は「〇〇がないから無理」とは言わない…………… 100

22 できる人は自分の短所に悩まない…………… 104

23 できる人は無理にリーダーっぽくしようとしな…………… 108

24 できる人は「そろそろ時間なんで……………」と言われ…………… 112

25 できる人は断ることを躊躇ちゆうちよしない…………… 116

26 デキる人は短気だが、怒らない……………120

27 デキる人は聞かれもしないのにアドバイスしない……………124

28 デキる人は批判に対してグジグジ悩まない……………128

お金の8つの「デキるふり」

29 お金持ちはレシートでパンパンの財布は持たない……………134

30 お金持ちはお店を無言で出ない……………138

31 お金持ちは片手でお金を扱わない……………142

32 お金持ちは「安くていい店」に飛びつかない……………146

33 お金持ちは満員電車に乗らない……………150

- 34 お金持ちは領収書をコソコソもらったりしない……………154
- 35 お金持ちは数百円の弁当や500円ランチは食べない……………158
- 36 お金持ちは頭のいいふりをしない……………162

勉強の10の「できるふり」 167

- 37 頭がいい人はイヤイヤ本を読まない……………168
- 38 頭がいい人はつるまない……………172
- 39 頭がいい人はチンタラ歩かない……………176
- 40 頭がいい人は熟考じゅっこうしながら答えない……………180
- 41 頭がいい人は参考書あさを買い漁らない……………184

42 頭がいい人は本を綺麗に扱わない……………188

43 頭がいい人は基礎を疎かにしない……………192

44 頭がいい人は偏差値を気にしない……………196

45 頭がいい人に寝不足はいない……………200

46 頭がいい人は学校を出ても勉強をやめない……………204

恋愛の8つの「できるふり」 209

47 モテる人はタブーを恐れない……………210

48 モテる人はボーツとしていない……………214

49 モテる人は告白のときウジウジしない……………218

50 モテる人は1回の告白で終わらない……………222

51 モテる人は普段着でデートに臨まない……………226

52 モテる人は自分で服を選ばない……………230

53 モテる人は臭くない……………234

54 モテる人は仕事の手を抜かない……………238

おわりに 「デキる人は「人生最後の言葉」を死に際に考えない……………242

できるふりからはじめなさい

できるふりをするのにも
少なからずコツがある。
その10のコツを教えよう。
今日からできる人になる
唯一のシンプルな方法。

自分の師匠ししやうを見つける

まず、モデルとなる師匠を見つげよ。
そして、師匠のエッセンスを
体内に取り込め。

すると、いつしか師匠の言うことを
先取りする瞬間が訪れる。

そのときが「師匠の劣化版」から
脱するときだ。

どんな師匠と出逢うかは、どんな人生を歩んでいくかに大きく影響するのは間違いない。

だが師匠は忙しい。

いちいちマンツーマンで教えてもらうのは難しいだろう。

師匠にとって迷惑でもある。

師匠は直伝でなくてもいいのだ。

あなたが勝手に師匠と決めて、その師匠から学び続ければいい。

すでに故人となった人でも、本を出しているのなら、その本をすべて読破しておくことだ。

大成功してとても会えないような人でも、その人のコメントが掲載されている記事やインターネットの動画など、今の時代いくらでもアプローチできるだろう。

師匠に直接会えなくても、会えた時のためにありとあらゆる準備をしておくことだ。

師匠が世間に発信している内容をすべてしゃぶり尽くしておく、やがて師匠が言いそうなことを先取りできるようになってくる。

否、正確には先取りしたくなる衝動を抑えられなくなる。

師匠が過去言ったこと、やったことを丸暗記しても、所詮しよせんは師匠の劣化版に過ぎない。師匠を先取りするということは、師匠が過去にやったこともないのに言いそうなこと、やりそうなことをあなたがやってしまうことだ。

師匠を先取りすることが、師匠に対する最高の恩返しなのだ。

「あの人ならどう思うか」を常に考えよう

2

ギリギリまでマネをする

どんなに努力をしても師匠を
超えられない。

そこまで来たら大したものだ。

どうしても超えられない1%が
あなたの個性だ。

99%のベースを

確固^{かっこ}たるものにしよう。

^{あこが}憧れの師匠をマネしていくと、途中で必ず挫折する。

どんなに努力に努力を重ねても、師匠にはなれない。

どうしても最後の一線が超えられないのだ。

どうして師匠のように自分は才能に恵まれていないのだろうか、自己嫌悪に悩まされる。

だが、安心していい。

そこまできたら、大したものだ。

どんなに努力しても、どんなに悶え苦しんでも、どうしても超えることができない残り1%こそ、あなたの個性で埋め合わせるチャンスなのだ。

その1%が入るだけで、師匠の猿マネから脱皮できるのだ。

傍^{はた}から見ても、師匠とは明らかに違う芸風になっている。

人によって評価はそれぞれ分かれるだろうが、中にはあなたのほうが優れていると言ってくれる人も現れるだろう。

その瞬間に、あなたのこれまでの人生がすべて繋が^{つな}がってくる。

答えはいつも、後から一瞬でわかるようになっていく。

不器用でマネできないとずっと劣等感を抱えていたラスト1%こそ、あなたの身を助ける強烈な武器だったのだ。

不器用さと才能は、いつも表裏一体だ。

師匠の猿マネに過ぎなかった99%がベースとなつて、あなたの1%を支えてくれるようになる。

99%のベースが疎かだと、ラスト1%が生きてこない。

とことん猿マネをした人にしか、99%のベースは築けないのだ。

まず猿マネをしよう

最後は師匠とコースをずらす

マネは所詮しよせんマネに過ぎない。

そこに感動はない。

マネを超えて

師匠に恩返しをするためにも

最後はコースをずらすといい。

違う分野で師匠や親を超えること。

これこそが

一番祝福される超え方だ。

あなたが師匠のマネをして、そこそこ成功できたでしょう。

でも、それは小成功に過ぎないし、師匠も複雑な気分だ。

何よりも自分の人生が楽しくないはずだ。

マネは所詮マネに過ぎず、そこに感動がないからだ。

師匠に対する恩返しにもなっていない。

恩返しになっていないということは、世の中が進化していかないということだから自

然の摂理せつりに則のっとっていない。

この世はすべてリレー形式で、知恵や技術を後世に伝えていくのが暗黙の義務になっているのだ。

この暗黙の義務そむに背く行為は、幸せにはなれないようになっていく。

師匠と弟子のリレーのあり方は、どんな形が自然だろうか。

それは最後にコースをずらすことだ。

あなたも幸せを享受できるし、師匠も心から喜んでくれるだろう。

別に90度や180度ずらす必要はない。

せいぜい10度や20度でいいから、ずらしてあげるのだ。

ずらしてあげることによって、直接あなたは師匠を超えたことにはならない。

超える場合には、必ず間接的に超えるべきなのだ。

これは、親の超え方も同じだ。

親の後を継いで親を超えると親は喜ぶが、同時に悔しい思いをする。

特に同性の場合は、それが顕著だ。

親を最上級に喜ばせたかったら、親と別の分野で親を超えるのだ。

間接的に超えると、周囲から何倍も祝福される。

違う分野で師匠と同じように振舞おう

できる人に嫉妬しつとをしない

できるふりは勧めるが、

できる人に嫉妬するのは意味がない。
才能発揮の邪魔をしても

何一ついいことはないだろう。

嫉妬して邪魔したくなる

ということとはあなたの「器」が
それだけ小さいという

証明にしかならないのだ。

もし成功したかったら、周囲で才能のある人間の邪魔だけはしないと心に決めることだ。

もちろん才能発揮の邪魔をしなければ、成功できるわけではない。

さすがに世の中は、そんなに甘くはない。

だが、才能発揮の邪魔をして成功する人間はいない。

才能ある人間に嫉妬して足を引っ張ると、悲惨な結末になると相場は決まっている。

「才能もない癖に、他人の足を引っ張って成功した汚いヤツ」というレッテルが貼られて、最後に自分も同じように足を引っ張られる。

世論から完膚かんぷなきまでに打ちのめされるのは、周知の事実だろう。

あなたがまだ20代であれば、むしろ才能発揮の邪魔をされる側かもしれない。

だが、30代以降になれば、今度は邪魔する側に回りかねない。

否、放っておくと邪魔したくなるのが人間なのだ。

直接足を引っ張らなくても、いやらしく間接的に足を引っ張る。

お互いに目配せめくばをしながら、証拠を残さない完全犯罪のように。

それがサラリーマン社会なのだ。

そんな時には、ぜひこの内容を思い出してもらいたい。

「自分が20代の頃、周囲から足を引っ張られたことと同じことを、今の自分はやろうと
しているのだな」というように。

念のため、才能というのはどんなに邪魔されても必ず発揮される。

たとえ、場所を変えてでも発揮される。

邪魔されれば邪魔されるほどに、才能は場所を変えて発揮される。

スゴい人を見て嫉妬したら負け。とにかくパクれ

面接やプレゼンでは演じきる

面接やプレゼンが一瞬で上手くなる
唯一の方法を知っているだろうか。
それは「演じる」という方法だ。

面接上手、プレゼン上手の

マネをしよう。

「もう少し上手くなってから……」
などと逃げていては、

人生のほうが先に終わってしまう。

就活の面接能力を急上昇させるコツがある。

それは仕事でプレゼン能力を急上昇させるコツと同じだ。

これまで出逢った人の中で、一番優秀な人を演じればいいのだ。

だから就活の場合は、できる限り数多くの面接で練習を積んだ人が有利になる。

「もう少し業界研究してから……」

「もう少し本を読んで勉強してから……」

そんなことを言っているうちに、就活シーズンは終わってしまう。

プレゼン能力はもっと深刻だ。

勉強をしているうちに、サラリーマン人生が終わってしまうのだ。

つべこべ言わず、周囲で憧れの人をまず見つけることだ。

見つけようと思えば、必ず見つかる。

万一見つからない場合は、今どきセミナーやDVDなどでいくらでも吸収できる。

インターネットであれば、世界的に有名な大学教授や経営者の講義やスピーチでさえ

無料で視聴できる。

私の場合はコンサルティング会社にいたから、周囲は全員プレゼンのプロばかりだった。

入社した時点では、プレゼンが一番下手なコンサルタントでさえ、前職で一番プレゼンが上手かった社員を超えていて驚いた。

その中でも10年に1人の天才と畏れ^{おそ}られていた講演のプロがいた。

私は未だにプレゼンや講演ではその天才コンサルタントを演じている。

冒頭の挨拶で、いつか名前を言い間違えないかと冷や冷やしている。

プレゼン、面接では、できる人になりきろう

二階級上の目線を持つ

平社員の範囲で仕事をすれば、
一生、平社員だ。

成長したいなら少し無理をしてでも

上の階級の目線を備えること。

常に二階級上の役職のふりをする。
これがデキる人になる道なのだ。

課長にガミガミ言われる平社員は辛い。

部長にガミガミ言われる課長は辛い。

なぜなら、平社員は平社員の範囲内で仕事をしており、課長は課長の範囲内で仕事をしているからだ。

範囲内で仕事をしているということは、成長できないということだ。

換言かんげんすれば、成長したくなければ範囲内の仕事をしていればいい。

その代わり、生涯ガミガミ言われ続けることになる。

ガミガミ言われる人生から脱出したいなら、常に二階級上の役職になりきって仕事をすることだ。

巷ちまたでは「経営者意識を持って！」と言われるが、それは無理な話だ。

経営者意識を持つためには、脱サラして独立する以外に方法はない。

経営コンサルタントは、主に経営者たちと一緒に仕事をするのだが、本当の経営者意識というものを私はついに持てなかった。

それは私が独立したからよくわかる。

経営者意識を持つというのは、もらう側から与える側に立場が一変することだ。

使われる人間が経営者意識を持てるはずがないし、持つ必要もない。

平社員なら部長の、課長なら取締役のつもりでちょうどいい。

二階級上の視点を持つと仕事もできるようになり、精神衛生上もいい。

会議でも発言の内容が違ってくるし、直属の上司の悩み事が先読みできるようになる。

課長が部長にガミガミ言われないようにすれば、課長の部下である平社員もガミガミ言われなくて済むのだから。

「課長だったら、部長だったら、どう思うか」を常に考えよう

自分よりできる人と仕事をすする

自分と同レベルか、低いレベルの人と仕事をするのは圧倒的に「楽」だ。
ときに持ち上げてくれるから

気持ちもいい。

しかしそんなことでは

一生レベルアップなどしないだろう。
しがみついてでもいいから自分より
デキる人と仕事をすることだ。

同じサラリーマン同士でも、年収の高い業界を思い浮かべてみよう。

お金持ちと仕事していることに気づかされないだろうか。

たとえば、大手と言われる経営コンサルティング会社で出世すると、若くして同世代のサラリーマンの倍以上の年収を獲得する。

仕事が激務だとか、専門性が高いということであれば、他業界でも負けない会社があるはずだ。

何が一番違うかといえば、一緒に仕事する相手がお金持ちだということだ。

たいていは年収2000万以上の重役たちが仕事相手だった。

代表取締役ともなれば、年収1億以上も珍しくない。

すると不思議なことに、それにふさわしい考え方や習慣がこちらに影響を与えるようになる。

悪く言えば「上から目線」、もしくは「大所高所たいしよこうしよからの物事の捉え方」になってくる。

普通にカフェや居酒屋で同僚と話す話題も、まるで若い取締役かと勘違いしてしまうような内容なのだ。

容姿を見ずに声だけ聞いていれば、誰もサラリーマンとは思わないだろう。

実際に私の周囲で会社を辞めて独立した元同僚は、かなりの確率で成功を収めている。

ここから気づかされたことは、どんな仕事をするかより、誰と仕事をするかのほうが大切だということだ。

できる人とは、しがみついてでも、一緒に仕事をさせてもらおう。

自分よりお金持ちと仕事をしよう

ベストの環境と道具を用意する

できるふりをするために

今すぐできることは

環境と道具を変えることだ。

もちろんブランド品を

買い揃^{そろ}えることがその目的ではない。
自分をブランドにするために
環境と道具を

ベストなものにしておくのだ。

できる人は、自分の仕事道具でお金をケチることはない。

ブランド品を買うのが目的ではない。

できる人にとっては、ブランド品よりも自分がブランドになることが大切なのだ。

そんなミーハーなブランド選びは、素人に任せておけばいい。

プロは仕事道具を自分の身体の一部として考える。

結果として妥協たきょうを許さないから、お金も時間もかかるといわけだ。

自分にとって本物だと確信を持てるものに出逢うまでは、何度でも買い換える覚悟もある。

本物に出逢うまでは、お金を惜しまないのだ。

私の場合は文筆家として本格的にスタートして軌道に乗せるために、書齋選びには妥協しなかった。

文筆家にとって一番の道具は、思考の空間だと確信していたからだ。

呼び出されてこちらからいちいち出向いては、肝心な執筆する時間やゆったり思

考を巡らせる時間が生み出せないと考えた。

この先ずっと目を酷使するだろうから、お手軽に眼球運動できる、景色のいい高層マンションがいいと考えた。

空気と水がこの上なくおいしい田舎育ちの私が、少しでも馴染める緑の多い場所を選んだ。

すべては“執筆”という一点に、私の生命を注力するためだ。

妥協を許さないのはプライドのためではなく、余計な気を遣って集中力を削ぐことを避けるためなのだ。

仕事道具に投資した分は、とっくに回収できている。

いい靴を買おう

タイプが似ているデキる人をマネる

タイプの全く違うデキる人をマネても
ただの「痛い人」になつてしまふ。
そうではなくて、

自分とタイプが似ているデキる人の マネをすることが大切なのだ。

たとえばモテるためには、モテる人をマネするのが一番だ。

これは間違いない。

ところが、まったく違うタイプのモテる人をマネしても効果は薄い。

それどころか、反感を買ってしまう可能性すらある。

間違った努力をすれば、努力すれば努力するほどにモテなくなってしまう。

二枚目なら二枚目、三枚目なら三枚目、野獣なら野獣、癒し系なら癒し系……というように、自分の容姿に似たタイプのモテる人モデルを見つけてのことだ。

ここで大切なことは、背伸びしないことだ。

本当は野獣なのに自分では二枚目と思い込んでいるといけなから、ぜひ真実を直言してくれる親友に意見を聞いてみることだ。

容姿という生まれ持ったものが似ているということは、違いは中身にある可能性が高い。

マネできるか否かは、わからない。

だが、マネできる部分があれば、マネしなければもったいない。

中身をインストールしてしまえば、モテる可能性が高い。

しばらく観察していると、モテる人にはこんな共通点があることに気づかされるだろう。

容姿と性格にギャップがあるということだ。

二枚目なのに性格は三枚目、野獣なのにやさしい、美人なのに天然……といったギャップのある人がモテるのだ。

ギャップを楽しみながら、モテるようになろう。

性格が似ていて自分より上の人を探そう

生い立ちが似ていてできる人をマネる

環境も境遇きょうぐうも時代も全く違うのに

その人をマネても

成功する確率は低い。

大切なポイントは

生い立ちが似ていて
できる人を
マネることだ。

「自分もあの人のようになりたい」

「あんな風にできるようになれたらいいな」

そう憧れる人はとても多い。

だが、憧れるだけで人生が終わってはつまらない。

どうせなら“あの人”と並ぶくらいまでできるようになったほうが、人生は絶対に楽

しい。

ここで大切なことは、あなたが憧れの「あの人」になるのではなく、あなたがデキるようになることだ。

人は生い立ちが違う人に強く憧憬するものだが、生い立ちの違いはあなたの予想以上に大きいと考えたほうがいい。

たとえば、本の著者の場合だとプロフィールは生い立ちの一部だ。

私は学生時代から、本を読むたびにプロフィールをチェックして、少しでも自分と似た生い立ちの著者を調べた。

たとえば、出身地が地方ならその後どのように立身出世したのかをプロフィールから学ぶことができる。

今は好き放題やっているけど、最初はお堅い^{かた}大企業に就職していたのだなと気づかされる。

もちろん、どんなにマネをしようとしても完璧にはマネができない。

マネできずにはみ出した部分が、あなたの個性として輝くのだ。

貧しい生まれで、できる人がいる。

エリート街道まっしぐらで、できる人がいる。

挫折の連続で、できる人がいる。

できる師匠は、生い立ちによって変わってくるのだ。

本のプロフィール欄を見よう